

下関市社会福祉協議会(山口県下関市)

(構成：自治会、民生委員・児童委員、社協、行政、警察、民間事業者等社会福祉法人美郷町社会)

《活動主体の概要》

総人口： 272,067人

高齢者数： 89,463人

世帯数： 130,297世帯

産業構造： 水産業、工業

地理的構造：本州の最西端に位置する海峡の町

活動のきっかけ

世代の近い住民が同じように年を重ね、高齢化していくなか、住民同士のつながりが徐々に薄れていくのを感じていたところ、平成25年度に、地域における重層的な見守りネットワーク構築を目的とした、県の「地域見守り・支え合い体制強化事業」のモデル指定を受け、その事業の一環として、旧豊浦町内において「徘徊者捜索声かけ模擬訓練」を実施することになりました。

模擬訓練には、地域住民や民生委員・児童委員、社協、行政、警察、民間事業者等、67名が参加して行われましたが、関係者相互の連携強化や見守り活動に対する協力体制が整備される等、大変良い効果が見られたことから、1か年だけの取組として終わらせるのはもったいないと考え、平成26年度以降も社協事業として、市内5か所に対象地域を拡大して継続実施することになりました。

さらに、平成27年度からは、市の事業として市内12カ所の地域包括支援センター区域内でも模擬訓練を実施するようになり、社協事業の5か所と合わせ、11カ所での実施となっています。

活動方法

地区社協や単位自治会が実施主体となり、模擬訓練の実施及びそれに伴う事前の打ち合わせ会や学習会の開催を計画しま

す。

まず、住民の方や多職種の専門職(地域包括支援センター、地元の福祉サービス事業所や福祉施設職員、警察官など)が協働で、訓練実施まで数回にわたって学習や話し合いを重ね、訓練の目的や必要性を共有します。

訓練では、認知症高齢者等が行方不明になったことを想定し、あらかじめ設定されたエリア内を徘徊者役が歩行。参加者は行方不明者情報を元に徘徊者役を捜し、認知症高齢者への声かけ、警察への連絡・通報の方法を学びます。

また、訓練終了後は反省会を行い、参加者が気付いたことや学んだことを互いに共有するようにしています。



(模擬訓練の様子)

工夫点

模擬訓練終了後の反省会には十分な時間をかけるとともに、話し合いの手法としてグループワークを取り入れています。特に、参加者から積極的に意見が出されるよう、小グループで軽食を取りながら話し合いを進めるなど、リラックスした雰囲気づくりに努めています。また最後に、小グループや訓練での役割ごとに意見を発表してもらい、参加者間での情報共有を図ります。グループワークで出される意見の中には、次の模擬訓練に生かされるものだけでなく、新しい事業につながるような貴重な意見も出てきます。



(反省会の様子)

成果

模擬訓練の実施により劇的に地域が変わるわけではありませんが、住民が安心して暮らせる地域づくりに向けて力を入れて取り組もうというメッセージが伝わること、多職種の専門機関が身近になり、住民が気軽に相談しやすいと感じること、困りごとを抱えた住民に対して、互いに支え合う仕組みづくりの必要性を感じるなど、などの成果を感じています。

課題

旧郡部では比較的見守り活動についての意識が高い地域が多いのですが、都市部の旧市内では近隣とのかかわりが少なく、

模擬訓練の計画に際し地元の理解を得るため、自治会役員から始まって地域住民に至るまで、丁寧に必要性を訴えていく必要があります。

代表者、事業者等の声

認知症への正しい理解はもちろんですが、日頃の見守りや福祉活動の中で、認知症があっても今までどおり地域で暮らしていくためには、周囲の理解と協力が必要であり、地域住民だけでなく、福祉専門職等も含めた協働や役割分担が必要です。

そのためにも、日頃から関係者も含めた周囲との情報交換や連携に向けた取組みを進めていただきたいと思います。

(下関市社会福祉協議会)